特定非営利活動法人
SAAJ 日本システム監査人協会報

東北支部20周年記念講演会報告

No.1347　横倉　正教

平成20年10月25日(土) 仙台市にて、日本システム監査人協会（SAAJ）創立20周年記念講演会（東北開催）が開催されました。

講演会では、約40名の参加者があり、盛会のうちに終了しました。

今回の講演会では、「システム監査人のこれからの10年」のテーマで、これまでの活動状況や普及・定着への推進、そしてこれからの活動についての講演や質疑応答が行われ、有意義な講演であったと思います。

ここで、簡単に講演会の紹介をさせていただきます。

＜開催概要＞

○日程：平成20年10月25日(土) 10:00～17:00
○会場：ハーネル仙台（宮城県仙台市青葉区）
○テーマ：「システム監査人これからの10年」
○主催：日本システム監査人協会（東北支部）
○後援：経済産業省推進プロジェクト「東北IT経営応援隊」
　　：特定非営利活動法人ITコーディネータ協会
　　：日本システムアナリスト協会
　　：社団法人中小企業診断協会　宮城県支部
○次第
10:00－10:10　開会挨拶
　日本システム監査人協会
　東北支部長　高橋典子氏
10:10－12:00　活動報告
　「支部活動からみたシステム監査人の育成」
　日本システム監査人協会
　九州支部長　福田啓二氏
13:00－14:10　特別講演
　「システム監査、普及から定着への推進力」
　日本大学商学部・大学院
　商学研究科教授　堀江正之氏
14:20－15:10　講演1
　「会計監査の最新動向～システム監査への期待」
　東北大学会計大学院
　准教授　成田由加里氏
15:20－16:20　講演2
　「システム監査、これからの10年」
　日本システム監査人協会
　副会長　小野修一氏
16:20－16:35　会長挨拶
　日本システム監査人協会
　会長　鈴木信夫氏
16:35－17:00　質疑応答・閉会挨拶

＜講演会の内容（概要）＞

●活動報告

「支部活動からみたシステム監査人の育成」

日本システム監査人協会
九州支部長　福田 啓二 氏

・自己紹介
・昨年の話
（システム監査人の技術的スキル）
・今年5月の話
（システム監査人の育成）
・今年11月の話
（IT技術者のスキル向上策）
・九州支部活動のあゆみ
・SEに必要なスキル
（システム監査人に必要なスキル）

目次（報告者の敬称略）

1.　東北支部20周年記念講演会報告 …… 1
2.　第9回理事会議事録 …… 3
3.　法人部会報告（清瀬市） …… 6
4-1. 第12回システム監査実務セミナー開催結果の報告 …… 6
4-2. 実務セミナー参加者感想（浜崎さん） …… 7
4-3. 第9回内部統制セミナー実施報告 …… 8
5.　近畿支部第18回システム監査勉強会 …… 9
6-1. CSAレポート（竹下） …… 10
6-2. 書評『実践現場発信のJ－SOX』 …… 11
7-1. 第10回内部統制セミナー募集案内 …… 13
7-2. 第13回システム監査実務セミナー案内 …… 14
8.　会計担当からのお知らせ（訂正） …… 15
9.　編集後記 …… 16

・ITトレンドの動向
（例えばセキュリティ技術）
（アクセス管理）
・小規模ソフトハウスのSEとして
（情報処理技術者試験挑戦のあゆみ）
（技術的スキルの維持・向上）
（情報収集の方法）
（コミュニティ活動への関わり）

●特別講演

「システム監査、普及から定着への推進力」

日本大学商学部・大学院
商学研究科教授　堀江 正之 氏

・監査の分類とシステム監査
（目的による分類、主体による分類）
・用語の確認（Controls of Controls）
・リスク－統制 ― 監査の関係
・論議すべき課題
（制度上の課題・長期的な課題）
（実践上の課題・当面的な課題）
・内部監査への期待（監査：減点方式）
・どこまで続くチェックのチェーン
（「何の」品質が向上するのか？）
・監査とその類似行為の境界線は？
（「監査」「管理」「監督」「鑑定」「評価」「検査」「調査」「考査」「査察」「視察」「診断」…）
・外部認証・評価の潮流
・２つのモニタリングの関係
（日常的モニタリング〈自己点検〉と独立的モニタリング〈内部監査〉）
・監査は「ルール」を超えてはならないのか、超えるべきなのか
・システム監査の軸足
（管理型監査:PDCAサイクルに着目した監査）
・管理基準と監査基準との区別
・定着路線：法制度化の議論
・新しい保証型監査
（段階水準型保証）モデル（私案）
・監査のマクドナルド化現象
・システム監査のインタラクションモデル（私案）

●講演１

「会計監査の最新動向～システム監査への期待」

東北大学会計大学院　准教授　成田 由加里 氏

（世界一周　会計監査の歴史の旅）
・複式簿記　14～15世紀　イタリア
・期間会計　16～17世紀　オランダ
・減価償却　18～19世紀　イギリス
・連結会計　20世紀　　アメリカ
・最近：時間的な考え方を取り入れて、退職金を負債として扱うようになった。
・「Book Keep」>「簿記」（翻訳：福沢諭吉）
・行政は単式簿記（収支のみ）

●講演２

「システム監査、これからの１０年」

日本システム監査人協会　副会長　小野 修一 氏

（アンケート結果を踏まえて）
・提言１：システム管理者および若い世代に目を向けた取組みの推進
・提言２：経営マネジメントシステムの枠組みへのシステム監査の組込み（PDCAサイクル）
・提言３：システム監査と情報セキュリティ監査の関連・違いの明確化
（視点の相違：有効性、効率性、信頼性、安全性）
（対象の相違：情報システムのみ、情報システム関連）
・提言４：システム監査の法制化・制度化のあり方の検討（目的、効果、対象、仕組み、実現に向けたアプローチ）
・提言５：保障型監査についての見解の明確化と公表
・提言６：システム監査基準を有効活用するための情報提供機能の強化
・提言７：システム監査基準のシステム現場への普及（システム監査基準>システム管理基準）
・提言８：システム監査の視点の整理、特に有効性（>「有効性監査実践マニュアル」）

・提言９：システム監査人の人材像の明確化と育成策の提示（システム監査の効果向上モデル〈案〉）
・提言10：当協会と関連官庁・機関・団体との連携強化

＜最後に＞

講演会終了後の懇親会では、講師の方を交えて活発な意見交換・情報交換が行われ、大いに刺激を受けた一日だったと思います。

東北支部では、メーリングリストや２ヶ月毎の月例会で情報交換を行っています。月例会では、毎年テーマを決め勉強会を行い、各自のスキル向上に努めています。

今回の講演会の開催に当たり、本部の皆様には多くのお力添えを頂きありがとうございました。また、お忙しい中、当日講演頂いた講師の皆様、当日参加して頂いた皆様、ありがとうございました。

平成20年度第９回理事会議事録

日本システム監査人協会

1. 日　時：平成20年10月9日(木)18:30−20:00

2. 場　所：星稜会館　3F会議室

3. 出席者：鈴木(信)、小野、力、吉田(裕)、和貝、馬場、金子、岩崎、榎本、橘和、桜井、仲、松枝、田中(中部支部)、吉田(近畿支部)

4. 議　題
4.1 審議事項　なし。
4.2 報告事項　各担当理事

5. 資　料　なし。

6. 審議事項　なし。

7. 報告事項（各担当理事）
7.1 定款変更手続きについて（鈴木会長）
(1)公益事業の件については、定款変更の認証された。
(2)定数変更の件については、都庁の担当者が異動したため、認証が保留のままになっている。（現時点では、行き違いがあり、認証が難しい状況にある。）推移を見守るとともに、折衝を継続する。

7.2 書籍の寄贈について（事務局：馬場）
会員の監修による書籍が寄贈されたので紹介する。会報にも紹介記事を載せる予定である。
書籍名：「実践現場発信のJ-SOX
－失敗を乗り越えた内部統制講座－」
著　者：雑賀　努
監　修：石島　隆
執筆協力：鈴木英夫
出版社：同友館 ISBN978-4-496-04445-8

7.3 20周年記念プロジェクト（和貝）
(1)本部を含め４箇所が予定通り終了した。残りの支部の開催予定はつぎのとおり。（SAAJのHPに案内されている。）
東北支部(10/25(土))、中部支部(11/15(土))、北信越支部(11/15(土))
(2)システム監査これからの10年の提言に対して、総会で何らかの報告ができるよう、議論ととりまとめを進めている。プロジェクトメンバーでの議論だけでなく、外部との意見交換も考えており、セキュリティ監査について大学の先生との意見交換を予定している（小野）

7.4 ＣＳＡ推進プロジェクト（力）
(1)第29回システム監査講演会（当協会後援）について（斉藤理事からの伝達事項）
開催日時：10/21(火) 10：30～16：20
当協会の説明ブースが設けられるので、パンフや出版本等があれば配布、展示する。
（改めて斉藤理事から連絡が入る。
→10/13［nposaajrijikai.1276］「システム監査講演会」当日配布資料について連絡済み）
(2)CSAフォーラムについて
第１回CSAフォーラムを9/30(火)に予定どおり実施した。
参加者は、32名　内部監査人、外部監査人、コンサルタント等多様であった。
講師は竹下氏、テーマは、「夢を作るサクセスオーディター」、共鳴者が多かった。
参加者は、システム監査のスキルを高めビジネスを広げたいという方が多いように思われた。（鈴木会長　感想）
次回は、三谷氏を講師に実施する。(11/26(水))。
会場は今回と同じ場所であるが、その後

は会場を変更する必要がある。(別途検討)
また、アンケートを用意して情報を収集する予定。

7.5 事例研究会(吉田(裕))
内部統制セミナは、10/29～31に実施するが、参加者が4名と少ない。
講師2名で対応のこととする。
12月の第10回目のセミナは、中止し、別途、開催曜日を土、日とするなど方法を検討する。
セミナの実施について、「台風が接近している」時に、開催の有無について問合せがあった。
何かあったときの参加者への連絡方法等について、検討する必要がある。(鈴木会長)

7.6 法人部会(小野)
(1)自治体セミナ(清瀬市 9/30予定どおり実施。第2回目は、10/29に実施する予定。)
(2)20周年提言プロジェクトについては、総会までにまとめられるよう検討を進めている。大学の先生を招き、セキュリティ監査について意見交換をする予定である。

7.7 会計(仲、榎本)
(1)会報に掲載した銀行振込講座の支店名が間違っていたので、メール及び次回の会報でお詫びと訂正内容を周知する。

(2)支部会計の7～9月分を集計し連絡した。総会の資料の作成に遅れないよう事務処理をすすめてほしい。

7.8 会報(桜井)
次回の会報の発行は、1月15日締切り、2月中旬発行の予定である。
テーマは、「システム監査人大いに語る」とし、世の中にシステム監査人のPRを発信したい。

7.9 月例研究会(沼野)
(1)今後の月例研究会開催予定は、次のとおりである。
・10月29日(水)
テーマ:郵便局株式会社におけるSaaS活用の概況について
講 師:郵便局株式会社 本社 システム企画部 担当部長 石塚真由美 氏
月例研担当:成、沼野
・11月25日(火)
テーマ:情報大航海プロジェクトに関するもの(テーマ調整中)
講 師:慶応義塾大学環境情報学部 教授 小川 克彦 氏
月例研担当:遠藤、沼野
・12月(調整中)
テーマ:情報セキュリティガバナンスに関するもの(テーマ調整中)
講 師:経済産業省情報セキュリティ政策室(調整中)
月例研担当:和貝、原
・1月(調整中)
テーマ:調整中(SAAJの研究会成果、または売り込みのあった日本BPM協会か?)
講 師:調整中
月例研担当:鈴木(実)
(2)現在、未決定の月のテーマ、講師の交渉を進めている。

7.10 認定委員会(鈴木)
平成20年度秋期応募者は、次のとおりである。
別途面接日程を決め、周知する。
公認システム監査人:38名
システム監査人補 :16名

7.11 東北支部(高橋)
(1)9月度月例会を実施
日 時:9月20日(土) 13時30分～17時
場 所:仙台ソフトウェアセンター(NAVis) 5階 株式会社IT経営コンサルティング事務所
内 容:
・「IT統制監査実践マニュアル」の勉強会(第1部 第5章)
・10/25の20周年記念講演打ち合わせ
・連絡、報告事項

7.12 北信越支部(森)
(1)長野県例会を実施。
日 時:2008年9月13日(土) 13:00-17:00
会 場:ホテル信濃路
参加者:堀、麻生、藤原、白井、神田、梶川、宮本、木村、清水、森田、森
内 容:
①青少年ネット規制法の成立背景と問題点
発表 麻生 秀明 氏
②システム監査研究会経過報告
報告:森 広志
③情報セキュリティ監査研究会経過報告

報告：木村 武志 氏、梶川 明美 氏
④情報セキュリティ監査用ソフトウェアについて
説明：森田 清隆 氏
⑤20周年記念講演会について
説明：森 広志
ビデオの貸し借り

7.13 中部支部（田中）
(1)9月例会を実施
日時・場所：
2008年9月10日(土) 14：00～17：00
（出席者20名）
静岡県浜松市　研修交流センター403会議室
内　容：
①事務連絡　14：00～14：30
・SAAJ20周年記念講演会について　他
②ご講演Ⅰ　14：30～15：10
「契約のあれこれ（ソフトウェア開発委託契約）」　萬代 みどり 様
③ご講演Ⅱ　15：30～17：00
「J-SOX対応IT統制監査実践マニュアルと基準研活動の紹介」
株式会社ビジネスソリューション（BSC）
代表取締役　松枝憲司　氏

7.14　近畿支部（吉田）
(1)第109回定例研究会を実施
日　時：平成20年9月19日(金)
18：30～20：30
場　所：大阪市立大学文化交流センター
大セミナー室
テーマ：「SI（システムインテグレーション）プロジェクトにおけるリスクマネジメント」～SIプロジェクトに潜むリスクのワナと標準リスクモデルによる実践的リスクマネジメント事例について～
講　師：土出 克夫氏（土出技術士事務所）
出席数：35名
(2)第18回システム監査勉強会(予定)
日　時：平成20年10月18日(土)
13：00～17：00
場　所：大阪市立生涯学習センター
5階　メディア研修室
テーマ：「J-SOXの運用テストの実際」
講　師：株式会社ニイタカ 監査室　雑賀 努 氏
「現場発信のJ-SOX」（同友館）の著者である雑賀努氏による内部統制評価手続きの実践的なワークショップです。実際にパソコンを使用して体験してもらいます。
(3)システム監査実践セミナー2日間コース
（近畿支部主催）（予定）
日　時：平成20年11月22日(土)～
11月23日(日)
1日目 13：00～21：00
2日目 9：00～16：00

7.15　中四国支部（溝下）
(1)実績
9月度月例会
日時：2008年9月24日(水)
18：30～20：30（2時間）
内容：「進化する千葉県市川市ITサービスの概要」（ビデオ視聴及び情報交換）
場所：広島市まちづくり市民交流プラザ 会議室B
(2)今後の予定
10月度月例会
日時：2008年10月22日(水)
18：30～20：30（2時間）
内容：「株式会社サウンドハウスにおける個人情報流出事件と対応」（ビデオ視聴及び情報交換）
場所：広島市まちづくり市民交流プラザ 会議室A

7.16　九州支部（福田）
(1)9月度月例会（第214回）
日時：9月20日(土)　13：00～17：00
会場：早良市民センター第2会議室
内容：
・ビデオ視聴：
第138回月例研究会（7月29日開催）
「株式会社サウンドハウスにおける個人情報漏洩事件と対応」
・発表・報告
(1)シスアド@しんきん（居倉）
(2)共通フレーム2007について（福田）
（開催予定）
(2)10月度月例会（第215回）
日時：10月18日(土) 13：00～17：00
会場：早良市民センター第2会議室
内容：
・ビデオ視聴：
第139回月例研究会（8月25日開催）
「IT経営の実現に向けて～IT経営協議会とIT経営憲章」　ほか
(3)大分合同セミナー
日時：11月8日(土) 13：30～17：30

会場：コンパルホール（大分市）
共催：中小企業診断協会大分県支部、
ITC大分
日本システム監査人協会九州支部

7.17　その他
総会開催日は、2月下旬の金曜日、午後半日とし、会場等の調整を図る。
現時点で2月20日、2月27日の何れかを検討する。（事務局宿題）
→本件については、以下のとおり。（10月21日、事務局からメールで周知済み）

「平成21年2月27日㈮　午後
機械振興会館　地下3階　研修1号室
定員120名」

議事録確認
議　　長：鈴木　信夫
議事録署名人：馬場　孝悦、岩崎　昭一
以上

次回理事会開催予定
日時：平成20年11月13日㈭　18：30～
場所：星陵会館

自治体向けセキュリティセミナ（清瀬市）を開催しました

平成20年10月29日　法人部会

法人部会の活動として現在進めている「自治体向け情報セキュリティセミナ」について、今年度第5回目として清瀬市におけるセミナを平成20年9月および10月の2回にわたって開催しました。清瀬市は、個人情報保護条例や情報セキュリティポリシーの制定に早くから取組んでおり、情報セキュリティ、特に個人情報保護の徹底に重点的に取り組んでいます。

セミナは対象者によって2つのコースを設定し、一般職員向け研修および管理職向け研修を行いました。

●一般職向けとしては「情報セキュリティ事故を起さないために」と題して市役所の職員を対象とした研修です。内容は、情報セキュリティを守ることの重要性、脅威とリスク、個人情報の漏えい事故と対策について事例を挙げて説明しております。

●管理職向けは「情報セキュリティ事故を防ぐための効果的な対策の策定と実施」と題して、情報セキュリティの重要性、脅威とリスク、個人情報の漏えい事故について事例を挙げて説明しそれに対する対策を説明しております。最後に、管理職として知っておくべき諸制度についての説明を行っております。

いずれも講演レジメの内容は、次の4項目でした。

1. 情報セキュリティの必要性（住民基本台帳ネットワークと個人情報保護）
2. 個人情報漏えいリスクについて（多発する個人情報漏洩の事件・事故の事例）
3. 情報セキュリティを守るための対策（全員の心構えがセキュリティ対策の基本）
4. 情報セキュリティを取り巻く諸制度（個人情報保護関連の法制度）

聴講された皆さんは大変熱心に話しを聞かれて、それぞれぞれの部署で今後何をしなければならないか、管理職として何をしなければならないかの理解を深めていました。それぞれの職場での情報セキュリティ対策を徹底させる決意を新たにしていただけたと思われます。最後に、窓口になって頂いた清瀬市総務部職員課に対してお礼申し上げます。ありがとうございました。

以上

第12回システム監査実務セミナー開催結果の報告

No.735　三輪 智哉

第12回システム監査実務セミナーが、さる9月6～7日、及び20～21日の4日間に渡り、千葉市美浜区の「海外職業訓練協会（OVTA）」において開催されました。

今回は、受講者9名、講師3名の合計12名の参加を得て、成功裏に開催することができました。

以下、その実施結果概要についてご報告いたします。

1. システム監査実践セミナーの特色

協会の特定非営利法人化に伴い、従来のシステム監査実践セミナーの内容をより強化して誕生したシステム監査実務セミナーは、今回で通算12回目を迎えました。

その特色は、事例研究会が「システム監査普及サービス」として実際にシステム監査を実施した

被監査企業の監査事例をベースとして教材を作成し、実際には4～6ヶ月かけて実施したシステム監査の実際を足かけ4日間に凝縮して、実地に体験してもらうという、極めて実践的な演習を主体としたセミナーとなっていることです。

受講者4名で1つの監査チームを形成し、監査依頼者の意向確認からはじまってシステム監査報告会に至るまで、チームのメンバーが協業して、システム監査手順を実地に体験することになります。

システム監査の実際を体験できるだけでなく、さまざまな経験や技術を持っている他の受講者との密度の濃い協力を通して、10年来の既知の友人のような関係を創ることができ、この点だけをとっても1度参加してみる価値がありそうです。

次回は来年(2009年)2月の開催を予定しております。システム監査を実際に経験したことのない方には、是非1度参加されることをお勧めいたします。

2. 今回のセミナーの日程

今回も、過去のセミナー同様、次のような日程で実施しました。

システム監査計画の立案、予備調査、本調査、さらには監査報告書の作成を経て監査報告会までを、1泊2日×2回(約37時間)の間に体験してもらいます。

第1日目の日程が終了した夜には、受講生と講師が入り交じっての懇談会も催され、日ごろの業務などの話に花が咲きました。

3. 受講者について

今回は、9名の方々にご参加をいただきました。うち4名は非会員の方で、システム監査とはどういうものなのか、体験をしていただくことができました。

また、今回は公認会計士の方もしくは監査法人にお勤めの方が5名と半数以上を占め、J-SOXの本格始動を前にして、監査法人の動きが活発になっていることが感じられました。

4. 教材について

事例研究会が実施したシステム監査普及サービスでのシステム監査事例をベースとして教材を作成しており、今回の教材は、「現在までのシステム化・情報化の妥当性評価」及び「新情報システム企画の情報戦略と情報化計画の妥当性の評価」が監査テーマとなっている事例を使用しました。

5. 講師について

講師は、システム監査技法などに関する説明やセミナー終了後の講評を行うほか、被監査企業の役員や従業員に扮し、システム監査人となった受講生から、予備調査及び本調査時の質問に回答したり、システム監査報告会の際にはシステム監査人に質問をするなど、実践的な役割も演じました。

今回の講師は、事例研究会のメンバーの中から、次の3名が担当しました。

鈴木　実　　川村隆庸　　三輪智哉

6. 実務セミナーの今後

事例研究会が主催して実施する本セミナーは、協会の特定非営利活動法人化に伴い、これまでの1泊2日のシステム監査実践セミナーをより強化して誕生してから、通算で第12回目の開催となり、協会の年中行事の一つとして定着しております。

一方で、ITの世界はシステム技術や利用形態の変化がめざましく、これに対応したシステム監査の方法も日々変化せざるを得なくなっています。

そのため、本セミナーを今後も続けていくためには、これからのシステム監査に即応した教材の改訂や製作が重要であると認識しており、「システム監査普及サービス」を受けていただく被監査企業を発掘し、新たな監査事例の実践を積み重ねていくことが不可欠です。最近、システム監査普及サービスを希望される企業の件数が少なくなっていますので、会員の皆さんから、システム監査を受けたい企業のご紹介をいただければ幸いです。ご協力をよろしくお願いいたします。

第12回システム監査実務セミナーを受講して

No.1657　浜崎 元伸
(エヌ・アイ・コンサルティング㈱ 勤務)

1. はじめに

9月6日(土)、7日(日)及び20日(土)、21日(日)と二回に分けて幕張OVTAで開催された第12回システム監査実務セミナーを受講しました。セミナーが始まるまではシステム監査経験の少ない私がついていけるか心配でしたが、経験豊富な講師の方々のご支援の下、何とか修了する

ことができました。また残暑も厳しい中、休日返上で各地から集まった受講生のモチベーションは高く、侃々諤々の意見を交わすことができ短期間でしたが密なるセミナーとなりました。

2.セミナー内容について

セミナーの内容は、日本システム監査人協会の事例研究会が過去に実施したg社向けのシステム監査を題材とし、監査計画から監査報告までの全工程を疑似体験するというものでした。冒頭でシステム監査の基本的な流れを講義して頂き、その後は講師の方々が顧客に扮し、受講生で構成する監査チームがトップインタビューから始まり、計画書の作成、予備調査、本調査、監査報告書の作成・報告までをロールプレイングで進めていくという非常に実践的なものです。トップインタビューは本番さながらの緊張感に包まれた中で実施され、予備調査では調査項目の抽出に苦慮し、監査報告書の作成では知り得た調査結果を如何に纏めるかで悩みました。その中で私が強く感じたことは、監査目的、監査テーマ設定の重要性でした。監査目的とは「評価を行おうとする事項」、監査テーマとは「どの点に焦点を当てて監査するか」ということであり、まずこの事が的確に設定できなければ、監査はブレ、監査報告も的の外れたものになるということです。システム開発には要求工程段階での徹底的な検討により品質を上げていくフロントローディングという考え方がありますが、システム監査に於いても初期工程の監査目的、監査テーマを徹底的に検討することが監査品質を向上させる上で非常に重要であると感じました。

3.情報システムの有効性監査について

今回のセミナーの題材となったg社のシステム監査は、情報システムの“有効性”監査でした。数年前に構築した基幹システムが経営環境の変化に応じて拡大してきた事業内容と適合しなくなっていると云う依頼者の悩みを監査チームが分析・評価し、改善策を提案するというものです。実際には情報システムの活用状況を調査したアンケートや部門長又は業務担当者のヒアリングを基に分析・評価を実施し、改善案を作成していきました。分析・評価では大小様々な問題点が見えてくるなかで、今問題とすべきものは何か、依頼者が望むべきところと合っているのか等々検討を重ねながら問題を絞りこみ、改善案の作成では、単に自己の経験だけからではなく、システム管理基準等の確固たる基準の上に立った提案であるべきとの考えで進めました。有効性の監査は非常に難しく、考え悩みながらの作業でしたが、その一方で非常に遣り甲斐のある作業でもありました。

当協会のシステム監査人倫理規定の第2条(使命)には、「情報システムの有効性を高めるため」とあります。敢えて“有効性”を使命として謳っているのだと思います。私は昨年までの約20年間SIerとして活動してきました。これからはシステム監査の経験をしっかりと積み重ね、これまでの経験と組み合わせならが、この有効性監査に取り組んで行きたいという思いをセミナーを通して一段と強くしました。

4.おわりに

セミナー終了後の親睦会は講師の方々の貴重な体験談を拝聴したり、また業種の異なる受講生と情報交換をしたりと有意義な時間となりました。4日間という短い間でしたが、皆様大変お世話になりました。

第9回内部統制セミナー実施報告

事例研究会 No.841 沼野伸生

事例研究会では、10月29日(水)から31日(金)の3日間にわたって、東京御茶ノ水の総評会館で、SAAJの定番セミナーともなった内部統制セミナーを開催しました。

本セミナーは、受講生が監査チームを作り、また、講師陣が企業側のそれぞれの立場の役職に扮し、J－SOX対応のIT統制監査の実際を、ロールプレイ方式によって模擬体験するセミナーです。

上場企業のJ－SOX対応もそろそろ評価段階に入ったこの時期に合ったセミナーとして好評を頂いており、今回で9回目の開催となりました。今回の参加者は6名と少なめでしたが、本セミナーが日本公認会計士協会の継続的専門研修制度(CPE)の認定研修になっていることから、半数の3名が公認会計士の方であり、2つの監査チームを作り、講師人と受講生が至近距離の、密度の濃い、また、本番を迎えているJ－SOXを見据えた、より実践的な内容で実施されました。

以下で、本セミナーの概要をお伝えすると共に、受講生の方に参加の感想を執筆頂きましたのでご紹介します。

＜セミナーの概要＞

本セミナーでは、以下の経緯を前提にしています。

①対象企業（A社）は、会社法、また日本版SOX法（金融商品取引法）の施行に伴い、社内の内部統制プロジェクトチームを中心に内部統制の整備、見直しに取組み中である。
具体的には、「ITに係る全社的な内部統制記述書」の他、「販売管理業務」「情報システム開発・変更管理業務」、「アクセス管理」に関する「業務記述書」、「業務フローチャート」、「RCM（リスクコントロール・マトリックス）」のいわゆる3点セットを作成した。

②A社内部監査部長から、日本システム監査人協会に、今回出来上がった成果物に対して、社内の独立部署としての評価を実施するにあたり協力要請があった。

そして、受講生はこの協力要請を受けた日本システム監査人協会の監査人として、監査チームを作り、IT全社的統制、IT業務処理統制、IT全般統制について、企業側が作った文書の分析、配布された規程・手続類の精査、また講師が扮する企業側のキーマンへのヒアリングを通し、その問題点を抽出し、最終日の監査報告会で企業側のトップにその結果を報告し、企業側の質問、反論に対応して、監査を終了するという流れになっています。

また、IT統制監査に不慣れ、また社内異動などで最近J－SOX対応の部署に移って来た方も無理なく受講できるように、セミナーの冒頭に「内部統制とIT統制監査基礎知識」の講義を行い、内部統制やIT統制監査の基礎知識の整理、確認を行った上で監査チームの監査がスタートするようにしました。

尚、この講義の内容は当協会の創立20周年記念事業の一つとして出版した「J－SOX対応IT統制監査実践マニュアル」（通称"黄色本"）に基づいており、本セミナーは"黄色本"に記載されたIT統制監査を正に模擬体験する、"黄色本"と対をなすものとなっています。

＜今後の予定＞

本セミナーは、当初は週末土日を使った1泊2日の泊り込みの研修としてスタートしました。しかし、J－SOX対応の方々の仕事に直結した内容なので、企業からの派遣がし易いように途中からは平日の通いの3日間コースとして実施してきました。

しかし、最近は特に公認会計士の方々は平日3日間はなかなか時間が割けず参加できないので、週末に開催しないのかというご意見も協会事務局に頂いていることから、次回の第10回は来年1月に週末土日を使った1泊2日の泊り込みの研修（1月23日、24日）として実施する予定で、既に当協会のホームページで参加の申し込み受付を行っています。

是非、多くの方々にご参加頂きたいと思っています。

＜第9回内部統制セミナー参加感想レポート＞

No.1723　中村薫

私は、名古屋に本社がある上場企業の情報システム部に所属し、IT統制の整備に携わっています。今年の4月から内部統制報告制度が始まり、私が所属する企業もこの制度の対象となっています。

情報システム部の内部統制に関わる業務としては、運用している全社基幹システムのIT統制を整備することと、各部門やグループ会社が管理している分散システムのIT統制を整備し評価できるように支援することです。

今回の内部統制セミナーに参加して良かったことは、実践的な知識を得ることができたことです。

ロールプレーイング方式のセミナーはとても実践的で、座学の講習に比べ、深い知識を習得できたように感じました。例えば、インタビューの準備のためにグループで検討するのですが、事前に配布された資料や教材だけでなく、メンバー各自の経験も踏まえて活発な討議が行われ、今までにない気づきを得たり、実務で参考にできる事例を知ることができました。

また、教材も非常によく考えられていて、ロールプレイングの効果が高くなるように工夫されていることに感心しました。

名古屋では、内部統制やIT統制のセミナーがほとんど開催されません。特に今回のような実務セミナーは聞いたことがありません。今後、名古屋などの地方でもこういったセミナーが開催されることを期待します。

近畿支部　第18システム監査勉強会「J－SOXの運用テストの実際」受講レポート

No.1709　荒町　弘

私は日頃ITソリューションを提供する営業の

仕事をしており、内部統制や内部監査というと、基本的に被監査部門の立場になることがほとんどであります。私の所属する組織においてもJ－SOX対応への取組みは進んでおり、いわゆる「3点セット」も整備されています。

今回のワークショップへの参加のきっかけは、私自身が監査側の立場での内部統制への取組みについて経験が無いため、ワークショップへの参加を通じて、監査側の取組みや監査手続きのポイントを具体的に理解したいと考えたからです。

ワークショップは、1.「業務プロセスに係る統制」の3つの罠について、2.リスクの評価に関するケーススタディ、3.運用テストとITのレベル、の3部構成でありましたが、通常は2日かけて行うコースの短縮版であったため細部にわたる実践というわけにはいかないながらも、分かり易い説明と具体的なケーススタディであり、とても理解が深まりました。

ケーススタディにおいては、企業の内部統制強化を担われている方とペアを組むことができ、普段自分が気付かないこと等に関しても色々気付きを得ることが出来ました。お互い立場の違うメンバで議論することにより、客観的な視点で「基準」や「価値観」の違いを理解することにより監査の考え方や手順を学ぶことが重要であり、ケーススタディの狙いであると雑賀氏もおっしゃっていましたが、まさに、自分以外の「外の目を持つ」という観点から、とても充実したワークショップでありました。

そして、何よりも驚いたのは、統制のための各種ツールや手法を雑賀氏自ら開発されたという点です。数々の試行錯誤を重ねて完成されたツールや手法だけに洗練されており、なおかつ、監査部門・被監査部門の双方に理解しやすい工夫が施されています。

ワークショップ参加にあたり、雑賀氏の著書「実践現場発信のJ－SOX」にあらかじめ目を通しましたが、そのことも理解を深めるのにとても役立ちました。

雑賀氏の作られた内部統制評価の手法やツール類は、J－SOX対応を限られた要員で運用していこうとする企業にとって、大変参考になるモデルであると感じました。

(投稿) 公認システム監査人レポート2008冬

独立系の公認システム監査人(CSA)が、情報セキュリティ、会社法改正、内部統制本格化などの大波小波に乗りながら活動していく様子をお伝えします。

公認システム監査人　No.898　竹下和孝

(常識・非常識　その3)
課題発見と目標達成

私がシステム監査技術者の試験に合格した直後は“ペーパー監査人”で、監査の実戦経験を積みながら、CSAを名乗るようになりました。しかしシステム監査の業務そのものは、士業のように法律の規制はなく、免許は不要です。その後私は他の種類の監査経験を組み合わせることで、CSAとしての能力向上に努めています。監査の役割では、独立性(被監査人から独立した第三者が評価する)の視点が重要ですが、私は、情報の取り扱いや「情報システム監査」、「仕組みの監査」を通じて、経営課題の解決に加え、経営目標の達成に貢献することを目指しています。

1. 課題発見型の監査

課題に対応する場合、またより積極的に課題を統制する場合に、その統制手法はタイミングにより発見型コントロールと予防型のコントロールに分類されます。

「発見型」は、あくまでも処理後や何かが起こった“事後に”発見するわけで、現場でイベントが発生した記録や証拠を集めて、その記録や報告、データの中から「原因をもたらしている因果関係」を抽出し、問題解決に役立てる方法であるといえます。真の原因を追究する意味では、まさにCSAの経験や腕の見せ所でもあります。その中には、新たな問題の発生を予防する“発見”もありますが、被害や事故が発生していないので、その影響を測定しづらいのがつらい。

一方で「予防型」の場合には、よりの前にコントロールするため、問題の発生を防ぐことができます。このため、責任と権限を含む組織のマネジメントの仕組み、正確で効率的な業務プロセスの仕組みが対象となり、問題を発生させないような手順や仕組みづくりが重視されます。

2. 目標達成型の監査

2008年9月の開催された初回のCSAフォー

ラムで提案した“喜業監査”という考え方は、従来、経営コンサルタントや戦略系コンサルタントと呼ばれる人が進めている事業革新・組織変革やチェンジマネジメントという分野も含めて、経営目標を確実に達成するための枠組みを提供するものです。その中で私は、発見した課題を解決するための監査、および設定した経営目標を達成するための監査を“目標達成監査”と呼んでいます。せっかくの課題を発見しても、その原因を追究し、それを改善、克服している組織は少ないのです。

マネジメントサイクルのPDCAの中で、Cの役割は認知が進んできました。次は、Aの部分で変革と目標達成につながる行動(Act)をCSAとして応援していきたいと考えています。

3. ジェイ・エイブラハムの視点

世界No.1マーケターといわれるジェイ・エイブラハム(Jay Abraham)氏は、その豊富なコンサルティングの経験から、企業が抱える諸問題をユニークな視点で解決し、業績向上をもたらすことで著名です。その氏に直接、指導を受ける機会を得ました。

氏は言います。「企業が利益を求める、儲けるだけであったら、ほかにもいろいろな手法があるよ」。しかし「相手企業組織や社会的なニーズに対する監査の役割は大きく、目標達成のモニタリングはその一つ」。企業や社会への貢献という視点を加えると、もっと受け入れられていい、とのことですが、私自身もこれまでに目立った広報活動もしていないことを再度自覚しました。まず、成果や実績、提案をまとめて提供し、CSAの有用性を知ってもらうことから始めます。

ITの専門的な技術経験、失敗の経験を活かし、業務改善、仕組みの改革、および一層の監査技術の高度化、普及を加速したいと思います。

書評
『実践　現場発信のJ－SOX』
― 失敗を乗り越えた内部統制講座 ―

【書籍の背景】

本書は書籍名の通り、筆者が大阪にある㈱ニイタカの内部統制推進をほぼ一人で準備され、筆者の経験に基づいて書かれた現場発信の内部統制の指導書である(監修者：公認会計士 石島隆)。

㈱ニイタカは、資本金約5億円、売上高110億円、社員数約170名の東証二部上場の中堅企業で、フードサービス業界に特化した顧客に業務用洗剤・洗浄剤・漂白剤および固形燃料等の製造販売を行っているメーカーである。事業拠点は国内に8営業所と2工場を持つ。

本書には、筆者が実際に㈱ニイタカで活用し、本書内で紹介されている図表等の詳細資料がCDデータで付録として提供されており、読者の企業で実務に役立つよう配慮されている。

【目次(細目は、書評者が特に紹介したい項を抜粋)】

Pert 1　業務プロセス対応の三大ハードル
(1)フロー図は書けてもRCMはできない
(2)RCMができても実施監査ができない
(3)実施監査で不備が多くて是正できない
Part 2　私のここまでの足取り
(2)とにかく3点セットを作る？
(4)リスクとアサーションの関連づけは？
(6)業務プロセスの中での評価の範囲は？
(10)会社の事務レベルに応じた統制とは
(11)決めた統制を定着させるには？
Pert 3　私の作った業務プロセス統制メソッド
(4)リスクの抽出
(5)統制内容、実施監査内容の整備
(6)実施監査、不備の評価
Pert4　「実施基準」は本当にすごい
Pert5　ＩＴに係る統制について
(1)ＩＴに係る統制について
Pert6　決算財務処理に係る統制について
Pert7　決算期毎の対応(私案)

【総　評】

目次でお分かりのように、Part 1やPart 2「(4)リスクとアサーションの関連づけは？」、Pert 3「(4)リスクの抽出」等、ほとんどの項目が実務で実際に内部統制の整備、運用および評価を実施された筆者にしか紹介できないテーマや内容で、まさに書籍名の『実践　現場発信のJ－SOX』の通り、現場発信による内部統制の指導書である。

特に会計監査や内部統制の素人には分かりづらい「アサーション」の取扱いには多くの紙面を割き、丁寧な説明と考え方を紹介されており、筆者自身のご苦労が伺える。またPert 3「(4)リスクの抽出」では、リスク評価の方針を明確にされると共に、リスク評価の基本的な方法論を明らかにされているのは、実務者でないと紹介できない重要なポイントである。勘定科目+アサーションで財務報告の信頼性に係るリスクを抽出してゆくための資料として「リスク展開シート」を開発されているのは見事である。このリスク展開シートが筆者の内部統制メソッドの中核になることは言うまでもない。筆者の言うように、このリスク展開シートを利用したリスク抽出こそ、J－SOXでの重要成功要件である「リスクベースアプローチ」の具体的な方法の一つであろう。
企業内で内部統制の整備・運用および評価に苦労をしている実務者には必読の書と言えよう。

【各　論】

各論では、目次に沿って筆者の貴重なご意見を何箇所か抜粋して紹介する。

Pert 1「(1)フロー図は書けてもRCMはできない」では、3点セットの内、本当に重要なのは「RCM」であり、「フロー図」は「RCM」に対する説明資料に過ぎません、と明言されている。さらに「フロー図を作成する」方法で財務報告の信頼性に係るリスクを洗い出すことは、プロ（公認会計士）にしかできません、と述べられている。卓見である。ただこの最初の項で、筆者はアサーションを括弧書きで「アサーション（統制上の要点）」とされていますが、アサーションについて実施基準Ⅱ.では、「適切な財務情報を作成するための要件」と説明されている。また実施基準「Ⅲ. 4(2)①イ」d.項では、「中心的な役割を果たす内部統制（統制上の要点）」とあり、統制上の要点とは、いわゆるキーコントロールであると思われる。筆者のご意見を伺いたい。

Pert 1「(3)実施監査で不備が多くて是正できない」では、対策として一つのリスクに対して複数の統制をキーコントロールとして引き当てておく旨の指摘があるが、初年度の内部統制整備でここまで気付き配慮されていることに感服する。

Part 2「(4)リスクとアサーションの関連づけは？」では、コントロールの整備においてAs-Isをコントロールアプローチと、To-Beをリスクアプローチと定義し、実施基準で勧めるリスクアプローチを行うにはコントロールから考えるのではなく、「To-Be型」である「リスク」に対して本来あるべきコントロールを考えるべきだとの主張は、多くの実務者が学ぶべきことである。

Pert 3「(5)統制内容、実施監査内容の整備」では、自社の自己評価について「当社では、まだこれらの内容（書評者注：自己評価の内容理解、不備に対する是正実施の現状等）を考慮すると自己評価を行うことはできません」と謙遜されているが、筆者考案の「J－SOX作業一覧」に沿って自己評価を行うことができるまで会社の統制環境を高めてゆくことが、私の目標の一つでもあるのですと、貴重なご意見の一端を吐露されている。さらに「これは永遠の課題かもしれませんが、自己評価こそが内部統制の一つのゴールのように考えています」と目標を明確にされている。

その他、運用状況評価におけるサンプリング時の、サンプリングツール（サンプライザー）の提供。実施監査計画書兼報告書、内部統制監査報告書、是正措置表、統制監査履歴管理シート等、実務に役立つ管理シートをCD添付で提供されていることは、実務者にとっては大変ありがたい。

最後に、Pert 5「ITに係る統制」については紙面が少ないのが我々には残念だが、「(1)ITに係る統制について」で、「特に「業務処理統制の運用状況の実施範囲を拡大することにより、…」との記載があり、「ITに係る全般統制」の評価が絶対に必要ではないことに留意して下さい」と喝破されている。議論が必要なテーマである。

評者：榎本吉伸
『日本版内部統制“成功”の秘訣』著者

第10回内部統制監査人セミナー開催のご案内

NPO法人日本システム監査人協会では、内部統制評価・監査に関する実践能力を修得するための内部統制セミナーを開催しています。
当セミナーは、協会が既に30回近い開催実績を積んだシステム監査実践・実務セミナーを背景に、事例研究会独自の教材を使って行う、ロールプレイング方式を中心としたITに係わる内部統制評価・監査に焦点をあてた極めて実践的なセミナーです。
上場企業は平成20年4月以降から開始する事業年度から、財務報告に係わる内部統制の経営者による評価が導入されることが決まっておりますが、このセミナーを受講することにより、ITに係わる内部統制の最新情報に加えて、内部統制評価・監査の実践力を身につけることができます。この機会に、定評のある当協会の実践的セミナーを是非体験して下さい。

＊本セミナーは当協会編著「J-SOX対応　IT統制監査実践マニュアル」に準拠しています。
＊本セミナーは日本公認会計士協会の継続的専門研修に認定されています。
＊本セミナー修了者は、公認システム監査人の認定申請にあたり日本システム監査人協会が別に定める所定の期間をシステム監査実務経験期間に算入することができます。
＊修了者又は受講者が、公認システム監査人又はシステム監査人補である場合、セミナーの実時間を継続教育の認定時間に算入することができます。

1. 内容：

1.1 財務報告に係わる内部統制に関する基礎知識を習得していることを前提に、IT全社統制・ＩＴ全般統制・IT業務処理統制のポイントを説明します。

1.2 受講者は外部のコンサルタントとして、被監査企業の内部監査部から、内部統制の評価と助言を依頼されたと想定し、
①IT全社統制・IT全般統制・IT業務処理統制について、被監査企業から提供された内部統制成果物とヒヤリングに基づいて内部監査を実施します。
②監査によって把握した問題点や課題を指摘し、改善提案を含む監査報告を行ないます。

2. 日程及び会場：

	日程	会場
第10回	2009年1月24日(土)～1月25日(日)(1泊2日コース)	海外職業訓練協会(OVTA) JR京葉線海浜幕張駅下車

＊OVTA：http://www.ovta.or.jp/access.html

3. 費用：105,000円(一般)、84,000円(SAAJ会員)
(費用には、教材費・食事代・消費税が含まれます。)

4. 受講していただきたい方：
J－SOX対応担当者、ITの内部統制の評価・監査に関わる管理者及び担当者。

5. 募集人員：各回20名(最小催行人員8名)

6. 受講申し込み方法：当協会ホームページ(http://www.saaj.or.jp/)からお申込み下さい。

7. 問い合わせ先：事務局担当　沼野　E-mail:numano_associates@nifty.com

以上

第13回システム監査実務セミナー
受講者募集のご案内

システム監査の実際を体験してみませんか!!

日本システム監査人協会では、設立目的のひとつである「システム監査人の実務能力の維持・向上」のため、毎年数回、実践的なセミナーを開催しています。

今回のセミナーは、当協会が既に12回の開催実績を重ねる、「システム監査実務セミナー」（4日間コース 1泊2日×2回）です。このセミナーは、当協会の事例研究会で実施したシステム監査普及サービスの事例を教材として、実践で得たノウハウを皆様と共有することを目標にしています。

システム監査の実際を体験してみたい方やシステム監査技術者試験には合格したもののシステム監査参加機会のない方は、この機会を利用してシステム監査の実際を経験し、システム監査能力の向上を図りましょう。

なお、このセミナーを受講し、事後課題を提出頂きその内容が適切と判断された場合には、当協会が認定する公認システム監査人の必要なシステム監査実務を1年間経験したものとみなされます。

本セミナーは、ITコーディネータ協会の「専門知識研修コース」（5.5ポイント相当）に認定されています。

記

1.	開催日時	平成21年2月14日(土)～15日(日)　平成21年2月21日(土)～22日(日)〈1泊2日×2〉 どちらかのみの参加は不可。 時間は土曜は10：00～21：00、日曜は09：00～15：00 （進行状況により若干の変更が生じる場合があります。）
2.	場　所	海外職業訓練協会（OVTA） 〒261-0021　千葉市美浜区ひび野1丁目1番地電話番号：043-276-0211 最寄駅：JR京葉線海浜幕張駅下車徒歩7分
3.	費　用	168,000円（日本システム監査人協会会員） 189,000円（一　般） （費用には、教材費・宿泊費・食事代・消費税が含まれます。）
4.	内　容	事例研究会が実施したシステム監査サービスをケーススタディとして取り上げます。セミナー用にアレンジした「システム監査依頼書および企業情報」を教材として、3～5名程度のグループにわかれて、トップインタビュー、監査計画書作成、予備調査、本調査、監査報告の実際を体験して頂きます。

会員の皆様へ事務連絡

前号の連絡は、一部の支店名が違っていました。ここにお詫びして、訂正します。

1.(特非) 日本システム監査人協会の銀行口座の統廃合について

NPO法人化前に使用しておりました銀行口座を廃止いたします。 廃止時期は、平成20年の年末を予定いたします。

その後は、NPO法人化後に既に開設しております銀行口座を利用いただくようにお願い申し上げます。

【廃止口座】
みずほ銀行　普通預金
北沢支店　店番号213　口座番号1053488

三菱東京UFJ銀行　普通預金
新宿西支店　店番号055　口座番号1494725

【統合後の口座】
みずほ銀行　普通預金
八重洲口支店　店番号026　口座番号2258882
トクヒ)ニホンシステムカンサニンキヨウカイ

三菱東京UFJ銀行　普通預金
＊支店名を訂正＊　日本橋支店　店番号020　口座番号5181195
トクヒ)ニホンシステムカンサニンキヨウカイ

以上　会計担当

2.会員が勤務先や住所を変更した場合の連絡

会員の皆様へ送付しております会報誌は、会員から届出された住所へ送付しておりますが、毎月、多くが返還されてきます。これには、次の場合が想定されます。

1) (勤務先を連絡先として登録している場合) 会員の勤務先が変更、退職
2) (自宅住所を連絡先として登録している場合) 会員住所が変更、転勤

以降、転居・勤務先の変更など、住所不明で返還された郵便物は、再送しません。ご要望に応じて、電子ファイル (PDF) で送付します。つきましては、自宅住所や勤務先を変更される場合には、早めに、事務局あてに連絡いただきますよう、お願い申し上げます。HPからダウンロードするよう準備中です。

以上　事務局／会報担当

(編集後記)

サブプライム問題に端を発した米国発の金融危機が全世界を巻き込んで、100年に一度と言われる世界的不況の進行が顕著となってきました。急速な円高・それによる日本の優良企業の業績悪化発表・株価の乱高下……そんな傾向がいつまで続くのか？　どこまで落ちるか？　と不安を募らせている方も多いことと思います。

協会創立20周年記念講演は、2月の東京を皮切りに九州支部、近畿支部、北海道支部、中四国支部、東北支部と続き、この11/15中部支部･北信越支部での開催を持って全日程を終えることとなりました。システム監査の認知度を高め、その普及・定着に向けて多大な功績を刻んだと思います。関係各位のご尽力に敬意を表します。(ＲＳ)

発行所　特定非営利活動法人　日本システム監査人協会
発行人　鈴木　信夫
事務所　〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町2-8-8
共同ビル(市場通り)6階65号室
TEL. 03(3666)6341
FAX. 03(3666)6342
事務局メール　saajjkl@titan.ocn.ne.jp
ホームページ　http://www.saaj.or.jp/

会報担当委員
竹下　和孝　吉田　裕孝　仲　厚吉
桜井由美子　成　楽秀　片岡　学
木村　陽一　須田　勉　藤野　明夫
山田　正寛

※会員のみなさまからの投稿(連載、随筆等何でもOK)を募集します。記名記事は薄謝進呈します。書籍紹介欄もありますので、執筆された方はお知らせ下さい。
会報担当メール　saaj-kaihoh@yahoogroup.jp